

化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 21	官報公示 整理番号	7 - 97(化審法) 1 - 307(化学物質管理促進法)	CAS 番号	別表
名 称	ポリ(オキシエチレン)アル キルエーテル(C=12-15)		構 造 式	$\text{CH}_3(\text{CH}_2)_m\text{O}(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_n\text{H}$ m:11 ~ 14 n:規定なし	
分 子 式	$\text{C}_{1+m+2n}\text{H}_{4+2m+4n}\text{O}_{1+n}$		分 子 量	-	
本評価シートでは代表的な物質に限定して記載した。その物質名は、別表に従いカッコ内に明示した。					
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 不明 不純物 : 不明 添加剤又は安定剤 : 不明					
物理・化学的性状データ 外 観 : 微黄色固体 ²⁾ 融 点 : 33 (C ₁₂) ³⁾ 、16 (C ₁₂) ²⁾ 沸 点 : 文献なし 引 火 点 : 文献なし 発 火 点 : 文献なし 爆発限界 : 文献なし 比 重 : d ₄ ²⁰ 1.02(C ₁₂) ²⁾ 蒸気密度 : 該当せず 蒸 気 圧 : 文献なし 分配係数 : 文献なし 加水分解性 : 水中で加水分解を受け、アルコールを生じる 解離定数 : 文献なし スペクトル : 文献なし 吸脱着性 : 文献なし 粒度分布 : 該当せず 溶 解 性 : 本物質/水 ; >10 g/L (C ₁₂) ³⁾ メタノール、クロロホルム、アセトニトリルなどの有機溶媒に可溶 (C ₁₂) ³⁾ 換算係数 : 文献なし					

総合評価

1) 危険有害性の要約

ヒトに対する影響に関する報告例は少ない。実験動物では、本物質の原液は擦過皮膚、眼、筋肉に強度の刺激性を示すが、腔粘膜刺激性は低いと報告されている。急性影響としては嘔吐、失調性歩行、硬直性痙攣等がみられ、静脈内投与ではその刺激性に起因すると思われる投与部位の腫脹や潰瘍形成、側復路血管の発達、血栓形成、肉芽形成、線維化、出血、浮腫などがみられている。

本物質は環境中に放出された場合、物理化学的性状から考えて水圏、土壌及び底質に分布するものと予想される。水圏では生分解されやすい。環境省のモニタリングデータでは水質及び底質から検出されたことがある。水圏環境生物に対する急性毒性は、非常に強い。

2) 指摘事項

- (1) 原液は実験動物で擦過皮膚、眼及び筋肉に強度の刺激性を示す。
- (2) 変異原性、発がん性、生殖毒性、ヒトへの毒性影響に関して十分に評価されていない。
- (3) 水圏環境生物に対する急性毒性は、非常に強い。
- (4) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

別表

略号	名称	組成式	Cas No
C ₁₂	ポリ(オキシエチレン)ドデシルエーテル	C ₁₂ H ₂₅ O(C ₂ H ₄ O) _n H	9002-92-0
C ₁₃	ポリ(オキシエチレン)トリデシルエーテル	C ₁₃ H ₂₇ O(C ₂ H ₄ O) _n H	24938-91-8
C ₁₃	ポリ(オキシエチレン)イソトリデシルエーテル	C ₁₃ H ₂₇ O(C ₂ H ₄ O) _n H	9043-30-5
C ₁₄	ポリ(オキシエチレン)テトラデシルエーテル	C ₁₄ H ₂₉ O(C ₂ H ₄ O) _n H	27306-79-2
C ₁₀₋₁₆	ポリ(オキシエチレン)アルキル(C=10-16)エーテル	-	68002-97-1
C ₁₂₋₁₃	ポリ(オキシエチレン)アルキル(C=12-13)エーテル	-	66455-14-9
C ₁₂₋₁₅	ポリ(オキシエチレン)アルキル(C=12-15)エーテル	-	68131-39-5
C ₁₂₋₁₆	ポリ(オキシエチレン)アルキル(C=12-16)エーテル	-	68551-12-2
C _{12,18}	ポリ(オキシエチレン)アルキル(C=12-18)エーテル	-	68213-23-0

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料 (2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank (HSDB), U.S. National Library of Medicine (1998).
- 3) 通産省化学品安全課監修, 化学品検査協会編, 化審法の既存化学物質安全性点検データ集, 日本化学物質安全・情報センター (1992).